



## 市・名勝

# 蜃気楼展望地点

魚津市釈迦堂地先（魚津市）

蜃気楼は、温度の異なる大気層で光が屈折し、遠くの風景の伸び上がりや反転などの像変化を起こす現象である。大別して実像の上側に虚像が現れる上位蜃気楼と、下側に虚像が現れる下位蜃気楼とがあり、魚津で単に蜃気楼という場合、普通は上位蜃気楼を指す。上位蜃気楼は、海面上の冷氣の上に、陸地で温められた空気が流れ込み、上暖下冷の空気層が形成されて発生すると考えられている。3月下旬から6月上旬を中心に、日中に気温が急上昇し北北東の微風が吹く気象条件の日に発生しやすいとされ、平年で10回程度観測される。

魚津の蜃気楼の最古の記録は1698年に著された「北越軍談」で、永禄7年に上杉謙信が魚津で蜃気楼に遭遇したとする記述がある。このほか江戸時代の各種文書に魚津の蜃気楼が紹介され、魚津は江戸時代以前から蜃気楼の名所として認知されていたことがわかる。現在も、魚津港付近の展望地点を中心とした海岸には、全国から多数の見物客が訪れる。